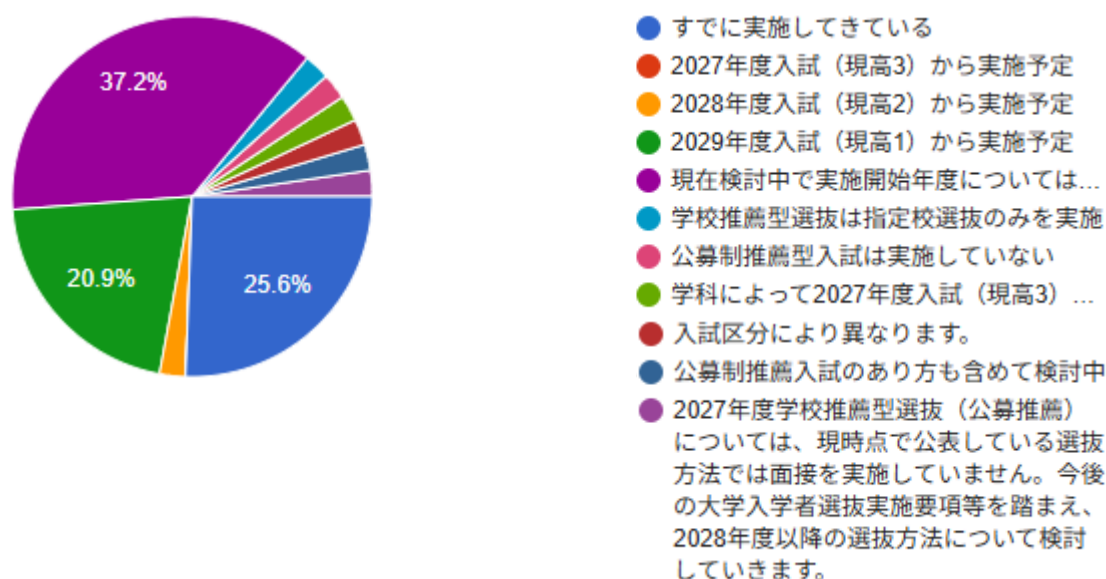


令和8年度「高大連携情報交換会」アンケート結果（大学・短期大学）

昨年の情報交換会の基調講演で新しい高大連携が提案されましたが、高大連携の新しい取り組みやその予定等がありましたらお書きください。23 件の回答

- 本学としては、現状を継続予定です。
- 教授陣へ出張授業への協力を求め、高等学校に案内している。
- 高校内での探究型授業に対する大学からの出張講義の提供（SDGs ゼミ）など
- 昨年度入試日程と重なっており、参加することができませんでしたが本学の高大連携の取り組みを記載いたします。本学では今年度「高大連携委員会」を設置し、これまで各教員や部署毎に実施をしていた高大連携を組織として継続的に実施ができる体制を構築しました。具体的には本学 10 学科から教員を高大連携委員として任命し、高大連携におけるコンテンツを「探究学習連携」「総合型選抜における入試説明・対策」「芸術関連授業連携」としてカテゴライズし、これまでも連携を行ってきた全国の高校約 50 校との高大連携を強化していきたいと考えております。これは対面型の高大連携授業だけでなく、オンデマンド動画教材の作成やオンラインでの説明なども活用して実施しております。
- 神戸市立高校校長会と教員育成に関する連携協定を締結しました
- いくつかの高校様と教育連携を実施中
- 本学は、本年 7 月、工学系大学進学専科を設置する大阪府立工科高等学校 5 校と高大連携による覚書を締結しました。今後は工学系大学進学専科設置校に在学する生徒の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、工学への志を喚起します。
- 本学の系列校を対象とした入学試験対策講座や、本学と協定を締結している高校の生徒を対象としたアカデミック・インターンシップを開催いたします。
- 新しい取り組みの予定はない
- 現在、検討中です。
- 現時点では具体的な新プロセスの導入には至っておりませんが、今後の 18 歳人口減少を見据え、高校現場のニーズや探究学習の状況に応じた出前授業の再編や、高大接続プログラムの共同開発など、新たな取り組みに向けた検討・準備を進めております。
- 本学では、従来から高校への模擬講義・実験実習講座、本学の施設・研究機器を活用した来学型講座、オンライン講座に加え、高校の「総合的な探究の時間」や科学部活動等に対する研究支援を行っています。今後は、大学から高校への一方向の講座提供だけでなく、高校生の探究活動について、テーマ設定、実験方法の検討、データ解析、成果発表までを大学教員等が継続的に支援するなど、探究活動を軸とした高大連携をさらに充実させたいと考えています。また、生命科学・バイオサイエンスに加え、データサイエンスや AI 等を含め、高校での学びと大学での専門教育がどのようにつながるのかを高校生が実感できる機会を増やし、高校と大学がともに生徒の興味・関心や探究心を育てる連携を進めていきたいと考えています。

年内入試での面接が必須化されましたが、公募制推薦入試での面接実施はいつからになるご予定でしょうか。43 件の回答



選択項目	回答数
✧すでに実施してきている	11
✧2027年度入試（現高3）から実施予定	0
✧2028年度入試（現高2）から実施予定	1
✧2029年度入試（現高1）から実施予定	9
✧現在検討中で実施開始年度については全く未定である	16
✧その他	
➤学校推薦型選抜は指定校選抜のみを実施	1
➤公募制推薦型入試は実施していない	1
➤学科によって2027年度入試（現高3）より実施予定であるが、全体としては検討中である。	1
➤入試区分により異なります。	1
➤公募制推薦入試のあり方も含めて検討中	1
➤2027年度学校推薦型選抜（公募推薦）については、現時点で公表している選抜方法では面接を実施していません。今後の大学入学者選抜実施要項等を踏まえ、2028年度以降の選抜方法について検討していきます。	1

令和 10 年度までを集中改革期間と政府は位置付けておりますが、貴学に置かれましてはその間の改革をどのようにおすすめていただいておりますでしょうか。31 件の回答

- 経営改善や募集戦略の検討
- 高校の授業見学（生徒・先生）等を積極的に受け入れ、併設校でのランチタイムイベント等にも取り組んでいる。
- 未定
- 他大学にない特徴的な学びによる教育力向上など、新たな学生層を引き付けるための教育や経営体制の強化・実践。
- 2027 年度より定員を増加し、新たな学びの領域の設置と学科再編を進めております。加えて、中長期経営計画に基づき DX 推進や環境整備を行い、教育の充実と大学運営の健全化を進めてまいります。
- 入試制度改革を行いながら、社会の変化・ニーズに合わせた学部再編を検討しております。
- 学内で策定された「ビジョン 2032」ならびに先般プレスリリースを行いました「教育改革 5 カ年計画」に基づいた、選ばれ続ける大学としての教育改革を行います。（改革内容の詳細は割愛）
- 従来通り
- 実技対策講座の立ち上げ、学科における入学定員見直し
- 高校生（留学生、社会人、通信制高校生なども含む）の興味・関心を進路につなげ、多様な考え方を持てる人材の養成を目指したい。そのための高大連携の探究授業（自己探究、学問探究、社会探究）を教育協定校に展開している。
- 現在新学科の設置申請を行っています。今後も改組転換に関する議論を進めていく予定です。
- 何よりも教育力を高める改革が優先で、そのための改革を実行中
- 本学園が示す基本構想「J-vision37」に沿って、本学は次の 50 年に向けた地域課題解決から世界への展開による知の創出、社会実装までを総合的に推進する総合大学を確立するべく、教育、研究・社会連携、学生生活、国際、大学運営を推進しています。特に、学生募集面においては学修意欲が高く、多様な能力をもつ入学生の確保に加え、大学・学部の魅力・強みの発信強化により選ばれる大学を目指し、教育面においても、本学の特色である徹底した少人数教育による主体性の養成、学部横断型授業や課題解決型学修による地域や実社会の課題解決など「人材育成」「地域貢献」を実践する環境を整備し続けていきます。
- 鋭意検討する期間として位置付けています。
- 学位プログラム及び卒業要件の見直しに伴うカリキュラムの再編を 2026 年度入学生から実施し、効果検証を進めてまいります。
- 令和 9 年度より 3 年連続の段階的な改組を予定。
- 指定の期間内に対応できるよう、既に検討を始めている。

- 建学の理念に基づき、教育の質保証と教学マネジメントのさらなる高度化を進めております。具体的には、DXを推進することで教育効果の最大化や学生支援の充実を図るとともに、多様化する社会のニーズに応えるグローバル人材の育成に向けたカリキュラムの継続的な点検・見直しに取り組んでおります。
- 本学では、集中改革期間における主要な取り組みとして令和9（2027）年度に農学部食農エコロジー学科（仮称）の開設を予定しております。
- 学生を中心とした思考法とキャッシュフローを元にした意識改革
- 全学的な教学改革ならびに入試改革を推進
- 回答は控えさせていただきます。
- 内部質保証を含め教育内容の充実を図る。新学部設置等の推進。
- 検討中です。
- 将来を見据えたチャレンジをはじめとした改革を検討中です。
- 本学では時代の変化に対応した教育体制の強化及び改革を重点的に推進しております。具体的には、文科省事業に採択された先端情報学研究科の定員拡充や「ファブスペース」の拡張による高度情報・モノづくり人材の育成、さらには2027年度の現代社会学部「心理学科」新設および京都ノートルダム女子大学との連携による地域教育資源の継承など、具体的な改革を着実に進めております。今後も急激な社会変化などを見据え、教学改革を継続的に推進していきたいと考えています。
- 本学では、令和10年度までの集中改革期間を、本学の教育・入試の質をさらに高める重要な機会と捉えています。改革にあたっては、高等学校や受験生への負担が過度に増えないよう十分配慮しながら、本学を第一志望とする受験生にとって受験しやすく、分かりやすい制度の構築を進めてまいります。あわせて、国公立大学や難関私立大学との併願を希望する受験生にも配慮し、受験にかかる費用負担や受験期間、評価方法、受験方式などを総合的に検討し、より安心して受験いただける制度改革を着実に推進してまいります。
- 本学では、2025年度から2029年度までの「第6次中期事業計画」に基づき、教育、研究、学生生活、アドミッション、産官学連携、大学の規模、ガバナンスの各分野で大学改革を進めています。教育面では、生物学・生命科学を柱としながら、データサイエンスやAIを含むSTEAM教育を充実させ、専門知識を社会課題の解決につなげられる人材の育成を進めています。また、カリキュラムの見直し、学生一人ひとりに応じた学習支援、大学院までを見据えた教育・研究環境の充実にも取り組んでいます。
- 2025年に段階的共学化をし、2028年に完全共学化を予定しています。そして、完全共学化に向けて、各学科の教育内容を見直し、新コースを設置するなどブラッシュアップを図っています。その間、高大連携、入試改革なども合わせて行っています。

財務省によると 2040 年までに少なくとも 250 校を削減するとのことでした。それに対応する政策やお考えについて、可能であればお書きください。25 件の回答

- 女子大を継続し、アントレプレナーシップコースを設置し、起業家女性を社会に送り出そうと改革を進めている。
- 観光に特化した学部 サテライトキャンパスの設置
- 財務省の示す大学規模の適正化の流れは、大学にとって教育内容と経営の両面で持続可能性が問われるものと受け止めております。本学は、滋賀県唯一の芸術大学として地域連携を強化し、教育の特色化と志願者確保に努めることで、社会に必要とされる大学としての役割を果たしてまいります。
- AI 時代における世の中の変化に対応し、社会のニーズに応えていくことが重要だと考えています。
- 本学の建学の理念に基づいた人材養成を継続して行うことを土台とし、時代の変化に合わせた教育改革を継続すること、本学の特色である教員養成や福祉・医療人材の養成といったエッセンシャルワーカーの養成の強みをより強固にしていくことを計画しています。
- 検討中
- 前述の高大連携を推進するとともに、入学後の各種の教育内容にもその要素を加えていく。社会（地域）において、物事を深く考えられる人材を輩出していくことで、社会から評価される大学としていきたい。
- 現時点では、政策が策定できていません。ただ、地域に残すべき学問（中教審はソーシャルワーカーとおっしゃってますが）に関しては、募集状況に関わらず削減すべきではないと思います。ですので、地域に必要とされる学問領域を持つておくことが、大学にとって大切なことだと思います。
- もう少し、社会ニーズとの対応の中で検討されるべきだと思いますが、大学としては、社会から求められる大学であり続けるための努力を継続するしかないと思います。
- 少子化の歯止めがきかず、私立大学の約 6 割が定員割れの状況となっています。地域要因に限らず都市圏でも決して楽観できない状況化で大学の定める中長期目標計画に沿って改革を推し進める必要があります。上述したように、安定的な入学者確保は設置学部の魅力・強みの発信、そして時代に即した変化を伴う必要があり常に危機意識を持って改革していく必要があると考えています。
- 第一に、高校生に必要とされる「女子大学」であること。そのためには、ブランド力だけでなく【教育・研究力】が何よりも重要だと考えています。【教育・研究力】が充実すれば、その 4 年間（薬学部であれば 6 年間）の成長保証を訴えることができる。「女子大学」にとっては、荒波・逆風ではなりますが、とりあえずこれからの 5 年間～10 年間で必死の覚悟で乗り切りたいと考えています。
- 大学の不断の努力を前提として、定員未充足を理由に大学を削減するのではなく、全国の大学が一律に定員を段階的に見直していくべきだと思います。新設の学部学科においては、スクラップ・アンド・ビルドのみとして総定員の増加を伴わない仕組みとするこ

とで、大学全体の定員管理を図る必要があると考えます。

- 18歳人口の減少が加速する中、本学ならではの特色ある教育をさらに磨き上げ、「選ばれる大学」としてのブランド価値向上に努めます。
- 定員規模の最適化を行いながら教育体制の改組を推進しております。医療職者の養成により地域を医療で支え、新設予定の農学部では、医療と食農を融合させた独自の学びを提供し、人々の健康と地域社会の維持に寄与することで、変化する時代の中でも「地域から必要とされ続ける大学」を目指して改革を進めています。
- 留学生に頼らない大学づくり。留学生への国の考え方が変化すれば流れは大きく変化しかねないため。
- 定員の充足に向けた内部質保証の推進
- 学生募集を強化し、収容定員の充足を図る。
- 検討中です。
- 先述のアンケート同様、現在検討を進めております。
- 財務省が示した数値目標をはじめとする18歳人口の激減は、高等教育全体が直面する極めて深刻な課題であると認識しております。本学におきましては、単なる規模の維持を目指すのではなく、本学ならではの強みや教育の質をさらに磨き上げ、社会から選ばれ続ける大学としての価値向上を図ることが本質的な対応策であると考えております。今後も時代の変化や社会ニーズを迅速に捉え、持続可能で魅力ある教育組織であり続けるための将来計画の検討を進めてまいります。
- 18歳人口の減少が進む中、高等教育機関には、教育・研究の質を高め、それぞれの特色や強みを明確にし、社会から選ばれ続ける大学であることが求められていると認識しています。こうした状況を、本学の教育・研究・社会貢献をさらに発展させる機会と捉えています。本学では、高等学校、受験生、卒業生、地域社会、自治体、産業界などのステークホルダーから信頼され、評価される大学をめざし、質の高い教育の提供、高度な研究の推進、そして地域や社会の課題解決に貢献する活動を一層充実させてまいります。また、高校生の進路選択において重要な役割を担う高等学校との連携をさらに深め、高大接続を推進するとともに、高校生一人ひとりの夢や目標の実現を支援する教育環境の整備に取り組んでまいります。さらに、地域や産業界との連携を強化し、社会のニーズを踏まえた人材育成と大学の特色化を進めることで、持続的に価値を提供できる大学づくりを推進してまいります。
- 18歳人口が今後さらに減少する中で、大学には規模だけではなく、それぞれの大学がどのような人材を育成し、地域や社会にどのような価値を提供するのかを、これまで以上に明確にすることが求められていると認識しています。本学では、生命科学・バイオサイエンスを専門とする大学としての特色をさらに明確にし、バイオ技術、データサイエンス、医療・健康、環境、食、動物など、今後の社会に必要とされる分野の人材育成と研究を強化していきます。

貴学の実情で高等学校側に伝えた方がよいと思われることがございましたら、忌憚なくお聞きください。22 件の回答

- コロナ前のようにOC参加（複数校）を義務付けてほしい
- 偏差値や知名度で大学を決めるのではなく、将来どのような社会人になるのかをイメージして志望校を選ぶよう指導していただきたい。
- 前述のとおり「教育改革5カ年計画」を発表し、今後5年間で大きく大学が進化して参ります。これまで本学にない分野となる「経営学部（構想中）」など、高校生や社会のニーズに適した教育内容へ刷新して参ります。
- 支援者受験に係わる特別な配慮希望において、実技試験の兼ね合いから高等学校における実情を教えてくださいたいのと、高校での窓口の情報共有をしてほしい
- 本学は附属高校を持たないこともあり、各高等学校様とは、高校3年間+大学4年間=7年間で若者を育てる教育連携をすすめていきたいと考えています。
- 2027年10月に150周年を迎えます。
 - ・それに伴いまして、今出川の図書館をリニューアルいたします。
 - ・2027年度より生活科学部食物栄養科学科食物科学専攻が食物栄養科学科食デザイン専攻として、名称変更およびカリキュラム改正を行います。より食品開発等に興味のある生徒さんに対応したカリキュラム構成となっております。
- 本学では現在、一般選抜（一般入試・共通テスト利用入試）における定員数の拡大に取り組んでおります。年内の公募制推薦入試は現在「英語1科目」での受験となりますが、特に年明けの本学独自試験を課す一般入試においては「英語・国語」「英語・地歴」「英語・国語・地歴」といった2科目以上の入試方式を導入・拡充しております。大学での専門的な学びには、語学力だけでなく、日本語での論理的思考力や歴史・地理等の幅広い知識が不可欠です。生徒様には早期に科目を絞り込まず、多面的な学習を継続のうえ、ぜひ一般選抜にも挑戦していただきたいと考えております。
- 問とは少し外れますが、「年内入試での面接が必須化」について高校現場の指導方針が変わってくると推察されますが、進路指導の変更があるようでしたらお教えいただければ幸いです。（公募推薦も総合型選抜のような入試方式になると考えられますがいかがでしょうか。極端かもしれませんが年内入試から科目入試がなくなる可能性もあります。が、どのように高校現場では受け止められているのでしょうか。）
- 本学では、公募制推薦入試における面接必須化をはじめ、学校推薦型選抜や総合型選抜全体のあり方について現場レベルで見直しを視野に入れている状況です。あわせて、関西で現在1月末から実施している一般選抜入試についても、要項遵守で2月から実施すべきとの声もあり、これにつきましても高校現場での進路指導の観点からどのように捉えられているか、ぜひ実情をお聞かせいただきたいと考えております。入試構造や入試日程に対する高校側の受け止めや課題感を共有していただきながら、双方にとってより良い選抜のあり方や連携関係を模索してまいりたいと考えております。
- 本学は大学名から、理科、特に生物を得意とする生徒のみを対象とした大学という印象を持たれることがありますが、現在は生命科学を基盤として、医療・健康、環境、食

品、動物、データサイエンスなど幅広い分野を学ぶことができます。また、文系・理系という区分だけで進路を考えるのではなく、「生き物が好き」「医療や健康に関心がある」「環境問題を解決したい」「データやAIを生命科学に活用したい」といった興味・関心を持つ生徒にも選択肢として考えていただきたいと思います。入学者選抜についても、総合型選抜では実験実習、オンライン模擬授業、探究活動などを通じて、学力だけでなく、学ぶ意欲や適性、探究する力を多面的に評価しています。高校で取り組まれた探究活動や課外活動についても、大学での学びにつながる重要な経験として捉えています。

貴学のお困りになっていることで高等学校までの段階で解決しておいてほしいと思われることがございましたら、忌憚なくおかきください。22 件の回答

- 出席の大事さの意識付け
- 生徒への積極的なアナウンス
- 同じ生徒が同時期に何回も資料請求がある。
- 調査書の評定に関して（特に指定校制入試）基準を設けていますが、高等学校のカリキュラムがどうなっているか知りたいときがあります。一部の高校ではホームページに掲載がありますが、できればホームページにて、カリキュラム構成とシラバスの提供は可能でしょうか。また、探求における授業展開の報告も情報公開があるとありがたく存じます。
- 自分が考えていることを相手に分かりやすく伝えられる能力を身につけて欲しい。
- 逆に、高等学校様の方でお困りの事例があれば、本学との教育連携を通じて解決できる可能性があるのでは、お聞きしたいです。
- 大学での学びをより深いものにするためには、幅広い知識の土台が不可欠となります。高校段階におきまして、特定の科目に偏らず、基礎学力をバランスよく身につけた上でご入学いただけるよう、引き続きご指導のほどよろしく願いいたします。
- 本学では、初年次教育や教養教育を担当する専門部会において、入学生生の学修状況について継続的に検討を行っています。その中で、「グループワークにおいて役割を担うことを避ける学生」や、「課題や資料の文章を十分に読まずに取り組む学生」が一定数見受けられることが課題として挙げられています。これらは学力そのものというよりも、大学で主体的に学び、他者と協働しながら学修を進めるための基礎的な力に関わるものです。大学入学後に育成していく力でもありますが、可能であれば高等学校段階から、協働的な学習への積極的な参加や、文章を丁寧に読み取る姿勢を養う機会を意識的に設けていただくと幸いです。
- 大学入学時点で高度な専門知識を身につけていることを求めているわけではありませんが、大学で主体的に学ぶための基礎的な学習習慣や、文章を読み内容を理解する力、自分の考えを文章や言葉で説明する力などは、高校段階で身につけていただければと考えています。また、正解を覚えるだけでなく、「なぜそうなるのか」「自分ならどのよう

に調べるか」を考える経験が大学での学びにつながります。探究活動等を通じて、自ら問いを立て、調べ、考察し、その結果を他者に伝える経験を積んでいただくことを期待しています。大学としても、高校と大学の間に学びの断絶が生じないように、高大連携や入学前教育、入学後の学習支援をさらに充実させていきたいと考えています。

学校推薦型選抜における校長推薦書のパソコンでの記入についての進捗状況について、下記よりお選びください。43 件の回答

